

講義名	サプライチェーンマネジメント論			授業形態	
担当教員	田中 康仁	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生
				ナンバリング・コード	DIS383

主題と概要

サプライチェーンとは、「原材料の調達と商品の生産から、流通を経て消費に至るまでのプロセスを、複数の線（チェーン）に見立てたもの」である。このとき、商品や物資の「発注・受注・出荷・入荷のサイクル」が線となって、企業間および企業内の部門間を結び付けている。サプライチェーン・マネジメント（SCM）とは、「サプライチェーンにおける商品や物資の最適な供給を、計画し管理すること」である。このとき、SCMが対象とする活動は、調達・生産・販売と、在庫・輸送である。経済が発展するにつれて、商品の高付加価値化が進み、調達から生産を経て販売までのプロセスが複雑になっている。しかもグローバル化により、世界各国から原材料を調達し、製品を生産してから、また世界各国に販売するようになっている。このため、サプライチェーンが多様化し、サプライチェーンを計画管理するSCMもより重要になっている。本講義では、サプライチェーン・マネジメントの基礎知識を幅広く身につけておくことを目的とする。

到達目標

- (1) サプライチェーンの実態とサプライチェーン・マネジメント（SCM）の定義が理解できるようになる。
- (2) サプライチェーンを構成する流通チャネル、在庫ポイント、物流ネットワークが理解できるようになる。
- (3) SCMの具体的な対象である調達・生産・販売と在庫・輸送法について理解できるようになる。
- (4) 物流業、KPIと物流コスト、グローバル化を取り上げるとともに、これからの課題として、環境・資源・安全なしい問題と災害対策が理解できるようになる。

提出課題

授業理解度を確認するレポートを適宜課します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

講義内において、前回の課題のフィードバック（講評と解説）を行う。

評価の基準

授業理解度を確認する小レポートを適宜課します（50%）。
期末試験（50%）。

履修にあたっての注意・助言他

私語厳禁
座席指定
講義の進め方・ルール・評価方法に関する詳細の説明・確認は初回の授業に行う。

教科書

.使用しない。

参考図書

その他

参考文献
サプライチェーン・マネジメント概論、吉瀬博仁編著、白桃書房
適宜、資料を配布する。

授業計画

- 1 ガイダンス、サプライチェーンの実態
- 2 サプライチェーン・マネジメント（SCM）の定義と内容
- 3 サプライチェーンにおける流通チャネルの計画
- 4 サプライチェーンにおける生産時期と在庫ポイント
- 5 サプライチェーンにおける物流ネットワーク
- 6 SCMにおける調達・生産・販売の計画
- 7 SCMにおける調達・生産・販売の管理
- 8 SCMにおける在庫・輸送の計画
- 9 SCMにおける在庫・輸送の管理とTOC
- 10 SCMと情報システム
- 11 サプライチェーンと物流業
- 12 SCMと企業経営
- 13 グローバル・サプライチェーンの構築とシームレス化
- 14 SCMと環境問題・資源問題・安全安心の確保
- 15 SCMにおける災害対策

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- * 各回に指定するテキストの範囲を熟読し、要点をまとめておくこと：各2時間×15回=30時間
 - * 各回の講義内容の復習：各1時間×15回=15時間
 - * 期末レポートの作成：15時間
- 合計 60時間

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

流通システム論は、マーケティングの基礎知識の土台として、学部専門基礎科目に該当する。流通・マーケティングやグローバルな流通の課題を分析し考察していくために必要となる流通システムの基礎知識や分析の枠組みを理解することを目的とする。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考
